

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 「売り切れです」と言われたら（第6時）

板書：Sorry, no pizza today. → OK. I'd like ~, please. [黒板のメニュー表を使う]

T Welcome to my restaurant! What would you like?

いらっしゃいませ！何になさいますか？（1人に言ってもらう）

S I'd like pizza, please.

（黒板のメニュー表から1品えらんで注文する）

T Oh... Sorry, no pizza today. What else would you like?

ああ…すみません、今日はピザが売り切れです。ほかに何になさいますか？（指さして待つ＝今日の主役）

S OK. I'd like spaghetti, please.

（1品えらび直せたらOK。Oh! や Hmm... とってから直してもよい）

T Thank you! Your turn. Say "Sorry, no pizza today." once.

次はみんなの番。ペアで店と客になり、1回だけ「売り切れ」を出し合おう。

つまった子への助け舟：この5分の仕掛けは「売り切れ」。注文が1回で通らない場面を一度だけ通しておく、相手の店に無い品を言ってしまった子が、だまり込まずに言い直せる。売り切れにする品は店の人が自分で決めておく。

話題2 ねだんを言ってくれないお店（第7時）

板書：Here you are. → How much is it? → It's ~ yen.

T Hello! What would you like?

こんにちは！何になさいますか？

S I'd like ice cream, please.

（1人に注文してもらう）

T OK. Here you are. Thank you! Bye!

はい、どうぞ。ありがとうございました！（ねだんを言わずに帰ろうとする）

S How much is it?

（言えたら Oh! Sorry! と返す。出なければ黒板の型を指さし、もう一度帰りかける）

T It's 200 yen. Thank you! Your turn. Shop staff, don't say the price!

200円です。次はみんなの番。店の人は、わざとねだんを言わずに終わろうとしてみよう。

つまった子への助け舟：主役は「お店を引き止めること」。こまるのは子どもではなく、会話のほうが先に終わってしまうこと——終わりかけた会話を1つの質問で戻す経験がいる。第8時のテストは、この時間の続き。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「売り切れって言われた人？ そのあと何て言った？」→ 出たことばを黒板に1つだけ書き足す（OK. / Hmm... / How about this?）。ふやすのは1つだけ。書き足した文は第8時のテストの日まで消さない——注文が1回で通らなかったときに、目を上げれば見える場所にあることが大事。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くことが中心。ペアの時間は1分×1回でよい（相手を替えて2回できると理想）
- ・売り切れにするのは1回だけ。毎回売り切れにすると注文そのものが練習にならない（言い直しは、ふつうは通ることの上に立つ）
- ・「売り切れ」も「ねだんを言わない」も、こまらせるための仕掛けではない。言い直せた子・引き止めた子をその場で1人ずつ取り上げて終える

